



Title	地下街の建設に思う : 特に環境衛生上の問題について
Author(s)	荒井, 惇
Citation	大阪公衆衛生. 1963, 12, p. 10-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84643
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

地下街の建設に思う

—特に環境衛生上の問題について—

荒井 惇

「町の下にも町がある」で有名になった「梅田地下街」とは阪神地下街のことで、広く紹介されているこの町は換気照明など十分なものでなく、一般の地下街に対する概念はこれが対象に考えられているので余り評価はよくない。しかし、地上の交通難を緩和するため、土地の利用のためなどの必要からその後も続いて南の難波地下街や、さらに梅田の東方面にも或いはそのほかにと建設が進められ、次々と完成していく。南の場合は梅田の前例を参考にして大部改良されているがまだまだいろいろな面で完全ではない。たとえば照明はよいが換気は店舗内が悪く、材料搬入とゴミの持出しに対する配慮がなく、防止構造の点で欠かん

.....

が多く、深更にねずみの跳りようを許す結果となっている。飲食店そのほか食べ物関係の店が多いので食中毒や伝染病の危険にさらされ、われわれとしては見逃がすことのできない重要な問題である。完成してしまえばたとえ欠点があっても容易に改良されぬ特殊な構造で、終始それらに悩みつけなければならぬのは地上の比ではない。幸い新しい梅田の地下街は経験と学問を参考にして設計された換気については換気筒を設けるなど思い切った措置により万全を期しておられるようである。保健所としても衛生局と共に地下街株式会社と約三ヶ月前から話し合い再三設計と現場をみることができ、研究もできたが遅きに過ぎた感がなくもない。従って気がかりな点が大部残っているようである。換気については計算では一応良くできているが実際に蒸気油煙熱気と各様のものが出る店それぞれに満足させられるか疑問をもっている。さらにメインダクトの曲りが多く計算が始

めから余裕がないだけに不安に思われる。防そ構造でも、天井が問題のようだ。空気の悪さは世論をよぶが、案外見逃がされ実際に困るのが材料搬入とゴミの取出しのことである。食べ物関係だけでも百を越すこの街の材料とゴミ群は相当なものであり、この処理は考えただけでも頭が痛い。新たにゴミの集積所を設け、材料も一部共通店舗を内部に造っているようだが、到底全体を満足させることはできまい。一つ一つとり上げてみればまだまだ問題は山積みされている。建設まで大部とりくめたが今後に残る宿題も多い。新しい地下街は建設に際して進言ができ一部はとり入れてもらった点では関心も深め愛着も感じている。

今後は地下街的性格のものが続々建設されることが予想されるが是非とも環境衛生面の配慮を第一にしなければならないような措置を構じたい。

そこに関連のある人間の健康を護り幸福を増進することを念願してやまない。 (北保健所長)

